爆乳人妻08号さんを
騙して犯して牝ペットにしちゃうお話
Lunatic Orgasm

「オイ。楽に金儲けができるってのはホントなのか？」

もう使われなくなった人気のない廃校に呼び出された〇8号は
いぶかしげに目の前の男に尋ねた。

「ええ、ええ。そりゃあもう！〇8号さんのその美貌があれば、
楽々がっぽり大儲けですよ！」

「どうゆーことだ？」

「いやぁ、簡単なことですよ。〇8号さんをグラビアアイドルデビューさせちゃおうって話です。
街を歩けば誰もが振り返るその美貌！完璧なプロポーション！
それを写真や映像に收めて販売すれば売れない訳が無い！
世界中の全ての男共が我先にと買い求めるでしょう！」

「な、なるほどな・・・。ま、まぁ、それは当然だろう・・・。」

「一回撮ってしまえばいくらでも複製できますから、
元手もほとんどかからず大金ゲットって寸法です。
もちろん〇8号さんには1ゼニーも出して頂く必要はありません。」

「ふぅん。悪くないな。ノーリスクってことか。」

「で、具体的に何をすればいいんだ？大変な仕事じゃないだろうな。
汗水たらして働くのなんて勘弁だよ。」

「いやいや。ご心配なさらずに。難しいことじゃありません。
○8号さんにはこちらの用意した衣装に着替えて頂いて
簡単なポーズや演技をして頂くだけです。
あっという間に終わりますよ。」

「ふーん・・・。・・・よし、やってみようじゃないか。
・・・分け前は8・2でどうだ？もちろん8が私だ。」

「ええ、ええ。それで結構です。さぁさぁ、それよりも早くこちらへどうぞ！
もう準備はできていますから、お着替えなさって下さい。
一緒に良い作品を作ってボロ儲けしましょうじゃありませんか。
うへへへへ・・・。」

「・・・着替え終わったが・・・。これはどーゆー服だ？」

「セーラー服という女学生の着る制服ですよ。
いやぁ、良くお似合いだ。」

「こ、こんなスカートが短いものなのか？」

「ええ、もちろんです。さあ、早速撮影に入りましょう。」

「スースーして落ち着かないな・・・」
「まぁまぁ、すぐに慣れますよ」
「・・・ずいぶん低いアングルから撮るんだな」
「素晴らしい脚線美をしっかりフィルムに収めないといけませんから。ひひひ」

「下着が見えちゃうだろ」
「ぎりぎり見えないように考えてますから。ひひっ」
「・・・これを壁に貼ればいいのか？」
「そうです。椅子を台にしてなるべく
高いところにお願いします♥」
ゆさっ♡
ぷりっ♡
ぴらっ♡
むちっ♡

「あっと、椅子が不安定なのでスタッフが押さえますね。」
ゆさっ♡
「ああ、すまないな。」
「さぁ、足元は気にせず続けて下さい♥」
（おほっほっほぉ♥〇8号さんのパンツが丸見え見放題だぜ♥）
ぴらっ♡
ぷりっ♡
（クンクン♥はぁはぁ。むちむちぷりぷりの尻からメスの匂いがムンムン漂ってくるぜ♥うひひっ♥我慢できねぇ。アレやろうぜ♥）
むちっ♡

「次は何をするんだ？」
「次はちょっとしたゲームで楽しみましょう♥
目隠しをして口と味だけで物を当てるゲームです。」
「ふうん。面白いじゃないか。
グラビアアイドルってのはこんなこともするのか？」

「ええ、最近の流行りなんですよ。
真剣にゲームに挑むアイドルの様子が
マニアに大ウケで・・・。
○8号さんも是非頑張ってくださいね♥」
「ふん、まかせろ。くだらないが、本気で当てに行ってやる。
勝負事に負けるのは腹が立つからな。」
「おっ、いいですねぇ♥（うひひっ）それでは始めましょうか。
3本のソーセージの内、一番高級なものはどれか、当てて下さい。
はいっ、あーん♥」

「あーーん」

「ぺろっ、はふっ・・・」
「噛んだり食べたりしてはダメですよぉ。
あくまで舌の上で感じる味覚で当てて下さい♥」
「ほぉん、きびひい、ぺろっ。・・・ルールだな。」
ぺロ
ぺロ

「はーい、もう2本目ですよ。」
「よし、どんどん来い。」

「ぺろぺろっちゅぱっ」
「どうですかぁ？微妙な塩加減と舌触りがカギですよぉ♥」
「わはぁってるって。ぺろぺろ。」
ぺろ
ぺろ

「はい♥いよいよ3本目です♥はぁはぁ♥
これは特にたっぷりねぶって味わって下さいね♥」
「ああ、言われなくてもきっちり味わい尽くしてやるよ♪」
「ほほっ♥でわでわ・・・。あーーん♥」
ぶわぁ…

「あーーん♥」

「ちゅぱっぺろぺろ♥」
「うっ、ほほっ♥あっ、あっあっ♥」

ペロ
ペロ

「れろれろっ、ちゅぱっ、ぺろぺろぺろぺろ♥」
「うひっ、ほっ♥ほほほっ、はっあっあっあっあっ♥あ～～♥」

「れろれろ♥ちゅっ、はふっはぷっぺろっ♥」
「は～、あっ、そこっ♥そこっ♥あひひっ♥」

れろ♥
れろ♥

「れろれろれろれろれろれろれろれろ♥」
「あっ♥あっあっあっあ～～♥♥♥♥♥♥♥」

「おい。さっきから何を呻いてるんだ？気持ち悪いぞ。
あと、このソーセージは随分しょっぱい味付けだな。」
「はぁはぁ、いやいや、この塩味がこのソーセージの特徴でして・・・。
中に旨味の凝縮した肉汁がたっぷり練り込まれてるんですよ♥」
「試しに口いっぱいに含んで全体を扱くようにしゃぶってみてください♥」
「ほぉ、やってみようか。」

「あんむっ・・・」

「ちゅぽっ♥じゅぽっ♥じゅぷっじゅぽっ♥」
（おふっほっほっ♥舌が絡みついてきて搾り取られるっ♥）
「じゅぽっじゅぽっちゅっちゅっ、ぷぽっ、ぷぽっ♥」
「あっ、あっ、も、もうデますよ！肉汁っ！♥
熱々の肉汁っ、味わって下さい！！！♥」
「ふもっ？じゅるっ♥じゅるるるっ♥♥」
ぢゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
じゅぽっ
ちゅっ
ぢゅぽっ

「おっ♥おっ♥おほっ♥・・・ほっ♥♥♥」
「んっ!?ん～～～～」

「んぐっ、じゅちゅっ・・・んんっぅ。」
「ふぅ・・・♥いかがです？濃厚でしょう？♥」
「苦しょっぱくて・・・、んぐっ、のどにからみついてきて・・・じゅる。
変わったソーセージだな・・・。はぁはぁ・・・」

「さぁさぁ、次のシーンに移りましょう。お着替えは終わり・・・、
・・・おほっ♥・・・こちらもお似合いですねぇ♥
（極上ムッチムチブルマだ、たまんねぇ♥やべぇ、勃起がバレちまう♥）」

「・・・これも学校用の服か？そこそこ恥ずかしいぞ。」

「これもグラビア撮影では定番の衣装ですよ。ささっ、早く早く。
すぐに撮影に入りましょう。スタッフ全員お待ちかねですよ♥」

「いっちに、さんしっ・・・。いやぁ、意外とお体硬いんですねぇ♥」
（こんな柔らかそうな太モモと、たっぷたっぷの爆乳付けてるのになぁ♥）
たぷん♡
たぷん♡
「んんっ・・・、ああ。しばらく体を動かすようなことも無かったしな。」
「いけませんねぇ。たまにはしっかり汗をかくような運動もしないと♥」
ぷるっ♡

「それで・・・お前たちは何してるんだ？撮影中だろ？」
「あ、このシーンでは男子生徒と女子生徒のカラみ・・・
いや、交流をイメージしてまして、一緒に柔軟体操をさせて頂きます。」
（はぁはぁ、脳みそとろけるようなイイ匂いさせやがって♥）
「カメラの画角の関係でちょっと窮屈かもしれませんが、
このまま撮影を続けましょう。」
（ちょっと動く度に乳首プックリ爆乳がゆさゆさ揺れて、
こっちは先走り液だくだくだぜ、このエロ人妻が♥）
「そうか。まぁ、そういうことならいいが・・・。」
ゆさっ♡
ゆさっ♡
ゆさっ♡
18

「では、ストレッチの続きを・・・。」
「あっ！？お、おいっ！なにしてるんだよ！」
ぐぐッ
むにゃっ♥
さわ♥
さわ♥
「いや、体の硬い○8号さんのお手伝いです。
女生徒を助ける優しい男子ってシチュエーションですよ♥」
（うへへ、肌すっべすべ♥マジでむき卵みてえにプリップリだぜ♥）
（たっぷたぷのデカ乳も想像以上のボリュームだ♥
ああ、早く嫌ってほど無茶苦茶に揉みしだいて弄くり回してやりてえ♥）

「手伝いって・・・、ちょっと手つきがおかしくないか？」
「こーゆーマッサージなんですよぉ。こうすれば温まって体が柔らかーくなりますからぁ♥」
（部分的にはプックリコリッコリしてくるだろうけどな♥）
「そ、そうなのか・・・？」
「ストレッチですから、多少体が密着するくらいは多目に見て下さいよ。大金ガッポリの為です♥協力して頑張りましょう♥」
「あ、ああ、わかったよ。くっ、んっ・・・♥」
むにゅ♥
さわ♥
さわ♥

「おっ、おい！これもストレッチなのか！？」
「次は男女混合のマット運動のシーンですよ♥
○8号さんはそのまま身を任せて下さい♥」
「胸が出ちまってるだろ！！
それに何でお前ら裸なんだ！？」
「閉めきった倉庫ですから、
蒸し暑くて。へっへっへっ♥」
「お、お前ら・・・。いいから一回離せ！
くそっ、おかしい。ち、力が出ない・・・。」
ゆさっ
ゆさっ
ぐりっ♡
ぐりっ♡
グッ

「ダメですよ、そんな動かれるとお♥
気持ちよくって堪らないじゃないですか♥」
「い、いい加減に・・・」
ゆさっ
「・・・へへっ、怒って暴れられると
洒落になりませんからね。
クスリ使わせて貰いましたよ。」
「!?・・・休憩の時の水か・・・」
「もう体が火照ってきてるんじゃ
ないですか?そんな腰をくねらせて♥」
ゆさっ
「な、なにを・・・・・っ!」
グッ
ぐりっ♡
ぐりっ♡

「よっ、と♥ほらほら、おま○こはもうぬれぬれですよ♥」
「なっ!?やっ!やめろっ!」
「おほっ♥愛液ダダ漏れでテカテカ光って、すげぇエロい♥」
「それに人妻とは思えない新品みてえに綺麗なおま○こしてやがる♥ぴっちり閉じてて、ピンク色で…。」
「みっ、見るなっ!くそっ!…お前らっ、覚えてろっ!」
グイッ♡

「そんな怖いこと言わないで下さいよぉ。ほらっほらっ、キモチイイでしょ♥」
「あんっ！♥・・・やっ、やめろ！腰を動かすなっ！！」
「可愛い声出すじゃないですか♥ちんぽにキますよ・・・♥いつもそんな喘ぎ声で旦那を喜ばしてるんですか♥？」
「うっ、うるさい！！知るかっ！！」
ゆさっ
ゆさっ
グッ
ぐりっ♡
ぐりっ♡

「あぁ、もう我慢できねぇ！よっと・・・。」
「っ！？・・・な、なにをする気だ！」
「こっちもこんなエロエロボディと密着しててちんぽが限界なんですよ。見てくださいよ、俺の自慢の肉棒を♥さっき一発抜いてもらったばっかなのにもうバッキバキに復活してますよ♥」
「？・・・ぬ、抜いて・・・？」
「今すぐコレで、おま○こずぼずぼして嫌ってほどイカせてあげます♥はぁはぁ♥」
ぶるんッ
パチンッ♥
ビンビンッ

「やっ！やめろっ！！」
「もう観念しな♥俺達が一晩かけて立派な牝にしてやるよ♥」
「だっ、誰が・・・」
「はぁはぁ、よし、いくぜ。・・・せぇ～のっ・・・」
ゆさっ
ゆさっ
グッ

「おらっっ！♥」
「ああっっっ！！」
ああ!!
ズンッ
ブチュッ

「おりゃっ！おりゃっ！♥」
「んああっっ！ああうっ！」
「ほほっ♥○8号さんのエロま○こっ♥
奥まで熱々でヤケドしちまいそうだっ♥」
「すげぇ、極太ちんぽ根本まで
ウマそうに咥えこんでやがる♥」
「突かれるたんびに尻肉ぷるぷる
揺れてんぜ♥・・・おい！早く代われよ、
辛抱たまらねぇぜ！♥」
パンッ
パンッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
あっ
あっ
あっ
あっ

ぱんぱんぱんぱんっ♥
「んあっ！・・・やっやめろっ・・・。」
「何言ってんすかぁ。○8号さんももう気持ちよくて堪らないんでしょ♥」
「顔がうっすらピンク色に染まって発情してんのバレバレだぜ♥」
「喘ぎ声もだんだん蕩けてきてますよ！おらっ♥おらっ♥」
「そんっ・・・なっ・・・はんっ！♥あんっ♥」
あんっ
あっ♥
はんっ♥
パンッ
パンッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ

ばちゅっ！ぶちゅっ！ぶちゅっ♥
「あんっ♥んあぁっ♥はぁんっ♥」
「おいおい、すげぇ高速ピストンだな。
挿れてからずっとノンストップだぜ。」
「〇8号さんも体ビクビクさせて
意識飛びそうになってるし♥」
「うひひっ♥気持ち良すぎて
腰が止まらねぇのよ♥…ダメだ、
もう保たねぇっ♥このまま出すぜ！♥」
「ひうっ♥いだ、出すって…」
パンッ
パンッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
あんっ
あ♥
はんっ♥

ビュクッ♥ドクッ♥ドクッ♥
「うっ♥おっ♥おほっ♥」
「あ〜〜っ！♥♥♥」
ビクッ
ビクッ
ビュ
ドクッ
ドクッ
ビュ♥るるー

「はっ♥ふあっ♥んんっ……！」
「……ふぅ♥人妻発情ま○こ最高♥あっという間に搾り出されちまった♥」
「へへっ♥○8号さんを見ろよ、びくびく痙攣しちゃって可愛いぜ♥大満足の中イキだったんだろ♥」
「くそっ、遠慮なく中出ししやがって。後の奴のことも考えろよ！」
「はぁはぁ、お前も早く挿れてみろよ♥子宮に精子注ぎ込むことしか考えられなくなるからよ♥こんな名器、滅多に出会えねぇぜ♥」
ビクッ
ビクッ

「んあっ・・・！。くっ。こ、こんな格好。や、やめてくれ・・・。」
「おほっ♥こりゃいいぜ♥あの○8号さんがすっかり性処理便器に早変わりだ♥」
「見ろよ、もう次のちんぽ欲しがって、おま○こヒクヒクさせてんぞ♥」
「！ち、違う・・・っ。イ、イッたばっかりで・・・。ううっ、そんなジロジロ見るなぁ・・・。」
「これなら自分がずぼずぼされてるとこバッチリ見えますよ♥」
「やぁっ・・・！あああ・・・・・っ♥」
「ひひひっ、カメラアングルもばっちりだ。
さぁ、また気持ちい～いマット運動のシーンの続きですよ♥」

「でわでわ♥お待ちかねのおちんぽ様ですよ～♥
たっぷり味わって下さ～い♥」
「だ、ダメだ！・・・お願いだ、またあんな風にされたらっ・・・もうっ・・・。」
「おほほっ♥ぱっくりおま○こが、ちんこの先っぽ咥え込もうとして
必死にちゅっちゅちゅっちゅ吸い付いてきやがる！♥
あ～♥すげぇ♥ねっとり吸い込まれていくぅ～～♥♥♥」

じゅぷっ♥じゅぷぷぷぷっ♥

「ああっ♥いやぁっ♥あ～～～～～!!♥♥♥」

あぁ

あ

じゅぷぷぷ♥

「おっ♥おっ♥お～～～ぅ♥

・・・はぁはぁ♥や、やべぇ、ちょっと気い抜いたら漏れちまいそうだ♥」

「はぁっ♥あっ♥・・・か、硬いい♥・・・だめぇっ♥」

「くそっ！おらっ！こんなエロい体にこんな気持ちいい穴付けてやがって♥！反則だろ、こらぁ♥！」
「あっ♥あぅっ♥だ、だめぇっ♥そんなっ激しくしな・・・、ああっ！♥」
「町の男は全員お前を見かける度にこの色白ボディを想像してちんこバキバキに勃起しちまうんだっ！♥」
「おらっ♥謝れっ！下品ではしたない淫売みたいな体しててごめんなさいってな！♥」
「やっあっあっあんっ♥ご、ごめんなさいいっ！♥」
「俺が一晩かけてお仕置きしてやるっ♥わかったかっ！♥」
「あっ♥あんっ♥あんっ♥はあっ♥はいいっ！♥ああっあっ！♥♥」
あっ
あんっ
あっ
あっ
あっ
あっ
ぶるっ♥
ズチュ
ズチュ
ズチュ
ズチュ

ズッチュッ♥ブチュッッ♥ズッチュッズッチュッ♥
「はぁっはぁっ！よしっ、イクぞっ！♥俺も一番奥に最後の一滴まで熱いの注ぎ込んでやるからなっ！♥お仕置き妊娠だっ♥」
「い、いやっ♥もう中は許してっ！孕むっ、孕んじゃうっ♥！」
「ちんぽキュウキュウ締めつけといて何言ってんだっ♥観念して元気な赤ちゃん身籠りやがれっっ♥はぁはぁっ♥もうイクぞっ♥イクぞっっ♥」
「あっ♥あっ♥あ～～～っ♥！だめえええっ♥」
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
ちゅぷっ♥
ズッチュ
ズッチュ
ズッチュ
ズッチュ

びゅっっ♥びゅるっ♥びゅるるっっ♥ぶびゅっ♥
「あ～～～～～っっっ!!♥♥♥」
ズンッ
ぶびゅっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
びゅるるっ♥

ごぽっっ♥にちゅっ♥ずるるるるっ♥
「うおっ♥・・・・ふぅぅぅ・・・♥はぁはぁっ♥」
「・・・はぁぁぁ・・・♥♥♥」

「・・・ふぅ～、種付け完了、っと♥」
「結局お前も中出しかよ。」
「あ～、お前の言ったとうりだった♥外出しなんてありえないわ。」
「な？最高のハメ穴だったろ？こりゃ当分楽しめそうだぜ。」
「・・・はぁっ♥・・・はぁっ♥」
ぴくっ
ぴくっ
ぷっ♥
とろ～♥
「すっかり牝の顔になっちまって♥
こりゃもう俺達のちんぽにメロメロになっちまってるな♥」
ぴくっ
「へへへっ♥○8号さん、まだまだ撮影は続きますよ♥
大好きなお金、ガッポリ稼ぐために頑張りましょうね♥」

---数日後---
「あんっ♥あんっ♥あんっ♥はんっっ♥」
「あ～♥超気持ちいいよ、牝猫〇8号ちゃんのサカリま〇こっ♥」
「ふあっ♥ありがとうございますっっ♥あんっっ♥」
ひんっ
あん
あん
ぶるんっ
ぶるんっ
ぶるんっ
はっ
はっ
はっ
ドチュ!
ドチュ!
ドチュ!
ドチュ!
ドチュ!
ドチュ!

あれからたっぷり牝として調教された〇8号さん。
今ではすっかり自分からちんぽにむしゃぶりつく立派な淫乱人妻に生まれ変わりました。
ただ旦那さんの粗チンでは、もう満足できなくなってしまったようですがね♥

今日はAVデビュー1作目のラストのハメシーンの撮影です。
と、言っても当人は仕事だなんて認識も無く、ただ発情して〇〇〇〇狂ってるだけ♥
好きなだけオスチンポと交尾できて本当に嬉しそうです♥

ちなみに、このデビュー作はもうすでに予約殺到。
○8号さん自らご奉仕する金持ち向けの「裏」感謝会も実施予定♥

2作目、3作目も当然制作決定♥
（もちろんゴム無し、ガチ孕ませセックスですよ♥）
○8号さんのこれからのご活躍をお楽しみに♥

「イクぞっ！たっぷり出るぞっ♥おらっ♥おらっ♥おらっ♥」

「あぁっ♥出してっ♥いっぱい精子ミルクちょうだいっっ♥あんっ♥あんっ♥」

ひんっ
あん♥
あん♥
ぶるんっ♥
ぶるんっ♥
ぶるんっ♥
はっ♥
はっ♥
はっ♥

ドチュ！
ドチュ！
ドチュ！
ドチュ！
ドチュ！

「このどスケベ猫がっ♥おらあっ！孕めえっっ♥」
ビュッ♥ビュルルッッ♥
「ああっっ♥イッ・・・イぐうううう・・・・・っっっっ♥♥♥！」
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「あっ♥・・・あぁっんっ♥・・・はぁっ♥・・・・・・んっ♥」
「・・・おっ♥うっううっ♥・・・・・・ふぅう～♥
・・・一滴残らず絞り出されちまったぜ♥
そんなに精子ミルクが好きなのか？この淫乱発情牝猫め♥」

「はぁっ♥はぁっ♥・・・はい♥好きい、好きですぅっ♥
青臭くてどろどろのザーメンミルク、お腹いっぱいになるまで、
もっと注ぎ込んでくださいいっ♥♥♥」

「よしよし♥撮影が終わった後もスタッフ全員でたっぷりかわいがってやる♥」
「へへっ♥今夜も朝まで生ハメパーティーだな♥チンポが乾く暇も無いぜ♥」
「ほらっ、最後に記念写真だ。肉棒ハメたまま、かわいくピースだ♥・・・はい、チーズっ♥」
パシャッ!
「♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥っっ」
ピクッ
はぁ
はぁ
はぁ
ピクッ
ピクッ
ピクッ
キュン
キュン

終わり♥